

STEP3

ドリームセンターを創る
交流拠点をつくり、夢の成果を束ねる

& East Asia Union 構想
より大規模な東アジア交流へ

童話交流～ドリームツリー運営本部としてのターミナルセンター
活動成果が束ねられたメモリアルセンター
夢を探し、夢を実現するためのコミュニケーションセンター

- 事務局機能: 連絡拠点、名簿管理、会議室
- メモリアル機能: 童話交流～ドリームツリーの活動成果の展示・保管
- 学習・交流機能: セミナー室、図書室、スポーツ室、ホール(音楽・演劇・映画)
- 宿泊機能: 宿泊室、談話室、風呂、食堂
- ショップ機能: ファッション、グルメ、アート、クラフト、音楽、絵本・書籍

その延長線上に、より大規模で本格的な東アジア交流を描き
これを推進する機関を設立する

- 国・企業・個人から資金を募り非営利公共機関をつくる
- 日中韓を軸に、将来的に東アジア諸国も交え、平和と発展に寄与
- 各国文化・言語・教育・歴史等をテーマに研究・交流・助成・顕彰を行う
- 東アジア青少年オリンピック、東アジア芸術祭などを開催する
- その他、技術協力、バリアフリー、社会問題解決への相互協力



STEP2

サポーターと施設を見つける

同窓会を支援してくれるサポーターと
中国、韓国の施設を見つけたい。



日中韓子ども童話交流 ゆめマップ

OB達の描いた事業発展プラン
(2018年8月22日作成)

子ども童話交流
友情と相互理解の発生

OB交流会
自覚的な協働関係の形成

ゆめマップの実現
交流・協働・創造の恒常化

OBネットワークの発展
日中韓の望ましい友好関係の形成

STEP1

ドリームツリーを育てる
童話交流をOB自身が担ってゆく

童話交流の担い手になり、子ども達に夢を与える
ネットツール充実等で交流密度・情報発信も高める
交流の木を徐々に育ててゆく

- 2年間で日本は150人の参加経験者、中国、韓国は100人の参加経験者と直接連絡を取れる環境を整える。
- さらに企画・運営、いずれ主催者(国会議員等)にも
- 社会人になれば、各自の職業や専門分野で協力する
- HPを三か国語対応にする。
- 2048年までに1000人ずつ参加経験者との連絡を取れる関係を整える。
- HP充実化を含め、事業を世の中にもっと知らせたい
- 2020年の東京オリンピックにボランティアとして参加する。
- 各開催国のリーダーは、その国の参加経験者から選出する。



現在 OB交流の基盤整備

- 交流体制(事務局、名簿管理など)
- 交流機会(OB交流会など)
- 交流ツール(HP、通信、アンケートなど)